

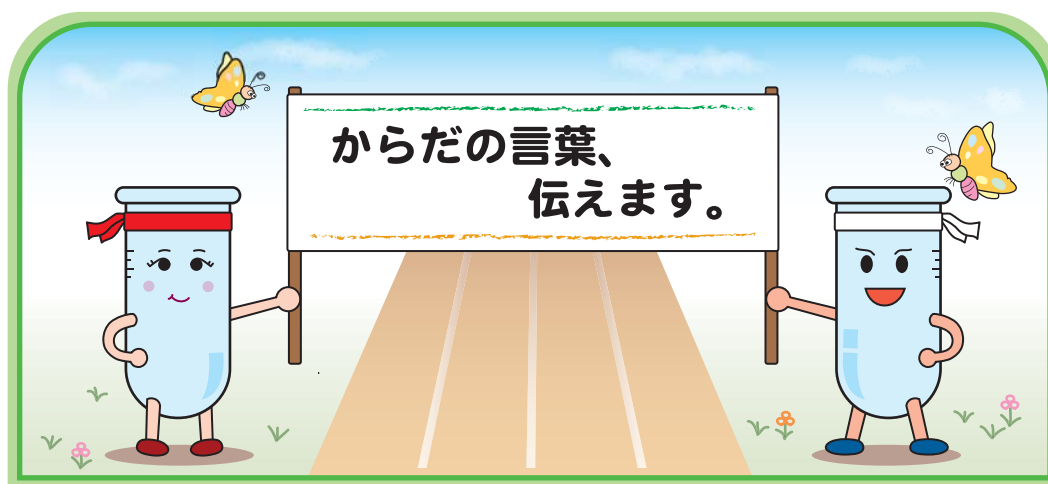
乳酸脱水素酵素キット

# エクティア<sup>®</sup>XL '栄研' LDHII-J

## はじめに

LDHは生体内の各組織中に広く分布し、嫌氣的解糖系の最終段階に働きます。血中では心臓、肝臓、腎臓等の各種疾患、悪性腫瘍、白血病、悪性貧血等で上昇がみられ、これらの疾患の診断、経過観察の指標となります<sup>1,2)</sup>。

エクティアXL '栄研' LDHII-Jは、血清または血漿中のLDH活性を酵素反応速度法により測定する方法で、日本臨床化学会 (JSCC) 勧告法処方にに基づき自動分析装置用に開発した試薬です。



## 特徴

- JSCC標準化対応試薬です。
- 血漿測定が可能です。
- 使いやすい液状試薬です。
- 共存物質の影響がほとんどありません。

## 包装単位・貯蔵方法・有効期間

製品名	R1/R2	包装単位	製品コード	貯蔵方法	有効期間	適応機種例
エクティア <sup>®</sup> XL '栄研' LDHII-J	試薬-1	60mL×4	G-QL01	2~8℃	1年間	日立7170
	試薬-2	30mL×4	G-QL02			
	試薬-1	80mL×4	G-QL03			日立7070
	試薬-2	40mL×4	G-QL04			
	試薬-1	400mL×2	G-QL05			日立7250
	試薬-2	200mL×2	G-QL06			

※ キャリブレーターは当社指定の酵素キャリブレーターをご用意ください。

## 測定原理

検体中のLDHは、L-乳酸リチウムを基質としてピルビン酸を生成すると同時に、NADをNADHに変化させます。NADHは340nmに吸収極大をもつので、この吸光度の増加速度を測定してLDH活性値を求めます。



## 使用目的

血清又は血漿中の乳酸脱水素酵素 (LDH) の測定

## 測定範囲

3 ~ 1000 IU/Lまで直線性を確認してあります。

## 基礎データ<sup>3)</sup>

測定機器: 日立7180形自動分析装置

### ■ 同時再現性

単位: IU/L

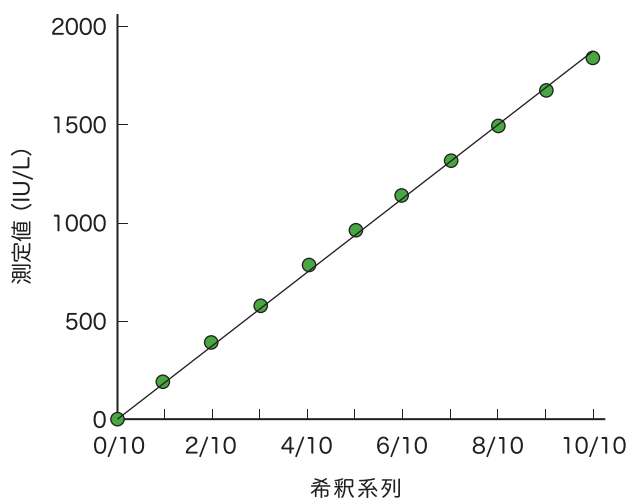
	試料1	試料2	試料3
N	20	20	20
Mean	125.0	140.4	429.4
S.D.	0.4	1.1	2.0
C.V.(%)	0.3%	0.8%	0.5%
Max.	126	142	432
Min.	124	139	426
Range	2	3	6

### ■ 妨害物質

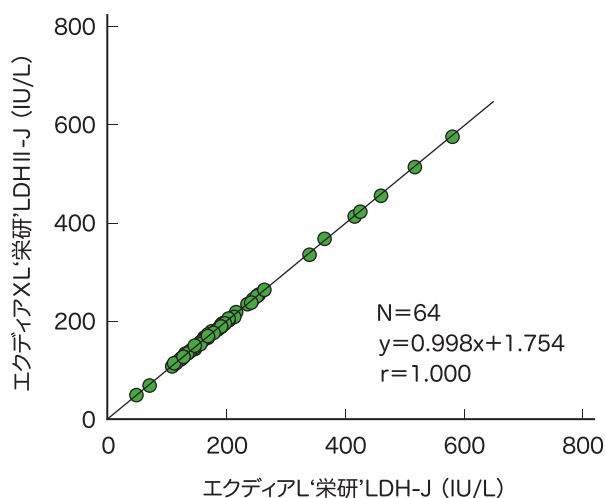
下記濃度まで測定値への影響は認められませんでした。

アスコルビン酸	20 mg/dL
遊離型ビリルビン	20 mg/dL
抱合型ビリルビン	20 mg/dL
乳び	3000 ホルマジン濁度

### ■ 希釈直線性



### ■ 相関性



## 主要文献

- 1) 金井 正光, 他: 臨床検査法提要, 改訂第32版, 金原出版, 東京, 615-621, 2005.
- 2) 北村 元仕, 他: 実践臨床化学, 増補版, 医歯薬出版, 東京, 394-401, 1982.
- 3) 社内データ

本試薬の使用上または取扱い上の注意については、製品添付文書をご参照ください。